

Spherix®20M の評価について

Spherix®20M 添加量 (含有率)		3phr (1.8%)	5phr (2.9%)	7phr (4.1%)	- (現行材料)
加硫特性	tc(10)/min.	0.8	0.8	0.8	0.8
	tc(90)/min.	4.3	4.1	4.2	4.5
	ML/kgf・cm	1.89	1.90	1.95	2.12
	MH/kgf・cm	7.82	7.84	8.01	8.23
	ML(1+4)100°C	62.8	64.3	65.9	69.9
常態物性	硬さ(JIS-A)	<b>60</b>	-	-	<b>60</b>
	引張強さ(MPa)	13.0	-	-	12.5
	伸び(%)	440	-	-	380
	100%モジュラス(MPa)	2.5	-	-	2.6
	引裂強さ(kN/m)	31.3	-	-	36.0
熱老化	硬さ変化(pts.)	+2	-	-	+2
	引張強さ変化率(%)	-0.8	-	-	-2.2
	伸び変化率(%)	-15.5	-	-	-14.0
圧縮永久歪み率 (25%圧縮)		9	-	-	8

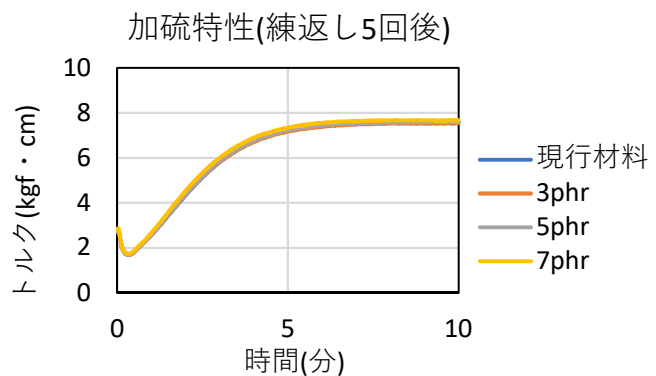
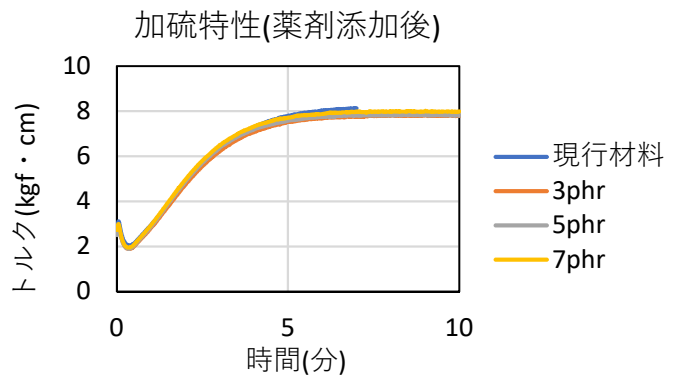
※加硫度試験：キュラストメーター®7 型使用（測定温度：170°C）

※試験条件 熱老化試験：70°C×70h、永久圧縮歪み試験：70°C×22h

粘度低減の観点では、添加量を増やした効果は見られなかったため、5・7phr の物性データは取得していない

塩素化ブチルゴム	60%
補強剤	31%
老化防止剤	4%
その他、薬品	5%
合計	100%

【基本配合割合】



初期の粘度低減は添加量を増やしても効果はなかったが、練りを繰り返す（剪断履歴が増える）と、添加量の多い方が粘度低下の度合いが大きい。

これは、ボールミルの作用が一度の剪断では失われないことを示唆していると考えられる。